

台風から

身を守るために

これから秋にかけて、台風による風水害の発生が予想されます。台風の被害から身を守るために必要な備えや対策方法について紹介します。

閩危機管理室 ☎32・2042



①台風が近づくと前に確認しよう

台風の進路など、気象情報を確認しながら、風が強くなる前に家の周りを点検し、飛びやすいものを固定するなどの対策をしましょう。また、いざという時のために避難場所などを確認しておきましょう。

ハザードマップの確認

津山市防災ハザードマップには「土石流」「急傾斜地崩壊」「地すべり」などの危険箇所、小学校や公民館などの避難所予定施設が記載されています。事前に把握して避難経路を考えておきましょう。

設置場所 危機管理室（市役所3階）

※避難所予定施設については市ホームページ
(<https://www.city.tsuyama.lg.jp/life/index2.php?id=865>)からも確認できます



②土砂災害の前兆を知ろう

台風により大雨が降り続く時に注意が必要なのは、「土砂災害」の発生です。土砂災害の前兆を事前に知っておくことで、いざという時に役立てましょう。

土砂災害の種類

がけ崩れ



斜面の地表に近い部分で、雨水の浸透や地震などで緩み、突然崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間が短い。

主な前兆

- ・がけにひび割れがで
- ・きる
- ・小石がパラパラと落ちてくる
- ・がけから水が湧き出る
- ・湧き水が止まる（水が濁る）
- ・地鳴りがする など

地すべり

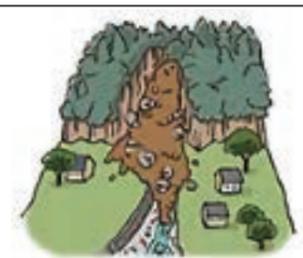


斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面の下方に移動する現象。甚大な被害が発生しやすい。

主な前兆

- ・地面にひび割れや陥没ができる
- ・がけや斜面から水が噴き出す
- ・井戸や沢の水が濁る
- ・地鳴りや山鳴りがする
- ・樹木が傾く
- ・亀裂や段差が発生する など

土石流



山腹や川底の石、土砂が、長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。一瞬のうちに人家や畑などを押し流す。

主な前兆

- ・山鳴りがする
- ・川の水が濁り、流木が混ざり始める
- ・腐った土の匂いがする
- ・降雨が続くのに川の水位が下がる
- ・立木が裂ける音や、石がぶつかり合う音が聞こえる など

家の周りの点検

家の周りを改めて点検してみましょう。

〈風が強まる前の家の対策〉

雨戸やシャッターのない窓
割れたガラスの飛散防止のためにカーテンを閉めたり、窓に飛散防止フィルムを貼ったりする

テレビアンテナ
錆びたり、ゆるんだりしていないか点検する

屋根瓦やトタン
めくれたり、壊れたりしていないか確認する

雨どい
枯葉や砂が詰まっているか確認する

物干し竿
飛ばされないように下に降ろしておく

庭木
飛ばされたり、倒れたりしないように固定する

窓
ひび割れやがたつきがないか確認する

プロパンガス
固定されているか確認する

植木鉢
強風で飛ばされそうなものは、家の中へ移動する

雨戸やシャッター
きちんと閉まるか点検補修をする

気象情報の入手方法を確認しよう

つやま災害情報メール配信サービス
市内で発生した災害情報や避難情報などをEメールで配信します。(事前登録要)
※通信費がかかります
【パソコンから】
<http://www.tsuyama-mail.jp/>
【携帯電話から】
<http://keitai.tsuyama-mail.jp/>

気象庁ホームページ
さまざまな気象情報の確認ができます。
【パソコン、携帯電話から】
<http://www.jma.go.jp>

緊急告知防災ラジオ
旧津山市内を対象にした災害発生時の情報伝達手段です。
市では購入・設置への補助を行っています。
※詳しくは、お問い合わせください
対象 旧津山市内に住所を有し、居住している人（1世帯につき1台を限度）

防災行政無線
加茂・阿波・勝北・久米の各地域で防災情報の伝達を行っています。

「土砂災害警戒情報」に注意！

大雨による土砂災害の危険性が高まった時に発令されます。テレビやラジオの気象情報などから確認しましょう。

③屋外への避難が困難な時は、屋内で安全を確保しよう

災害が発生し、家の中に居ることが危険な状態になった場合、直ちに避難する必要があります。しかし、屋外の状況によっては開設されている避難所などへの移動が困難な場合、屋内に留まって安全を確保することが必要な時もあります。浸水による建物の倒壊の危険性が無いと判断される場合には、屋内の2階以上（土砂災害の場合は、斜面と反対側の部屋）へ緊急的に避難し、救助を待つことも検討してください。

こんな時の屋外への移動は危険です

- 夜間や急激な降雨で、避難路上の危険箇所が分かりにくい
- 膝上まで浸水している（約50cm以上）
- 浸水の深さは20cm程度だが、水の流れる速度が速い
- 浸水の深さは10cm程度だが、水路などの位置が分かりにくく、転落のおそれがある



地域の防災訓練の紹介



二宮地区 自主防災防犯会 会長 後藤 尚則さん

津山市連合町内会二宮支部では、平成25年4月に自主防災防犯組織を立ち上げ、毎年、地域の防災意識を高めるための避難訓練を実施しています。避難のチェックリストを作って各町内で安否確認を行うなど、地域全体で取り組んでいます。

また、今年の訓練では、防災畑として、畑に約150本のサツマイモを参加者全員で植えました。災害時の炊き出しの際、役立てばと思います。これからも、地域の皆さんと協力して身近なところから防災防犯について取り組んでいきたいと思っています。



防災畑作り

危機管理室から

台風による被害を防ぐためには、到来するまでの間に準備をしておくことが重要です。今回、掲載した内容以外にも土のうや非常用持ち出し品の準備など、家庭や地域での再確認をお願いします。